

# 花の里つきがた

花の産地である月形は「花の里」と言うキャッチフレーズが付き、花は町を代表する基幹産業のひとつです。生産の歴史は古く、花き生産組合が設立されてから昨年で50年を迎えました。

本号では、「花の里」として歩んできた花き栽培の歴史や現在の状況、花を活用した取り組みなどを紹介します。

## 稲作からの転換

月形の花の歴史は、昭和46年「花き園芸研究会」から始まります。当時は食の欧米化が進み、パン食が普及していきました。庶民の間で米の需要が減っていく一方、稲作は農業用機械などの技術向上により、お米の生産は伸びていました。

米の需要と供給のバランスが悪く、政府は昭和45年に新規の開田を禁止、耕作面積の配分を行うなど生産調整を始めました。また、水稲以外の作物へ転換をきっかけに花き



▲スターチス

栽培が着手されました。

## 初期から最盛期

当初は7戸の生産者が0.8haの面積で菊の栽培を開始。その後、カーネーション、カスミソウをはじめとし

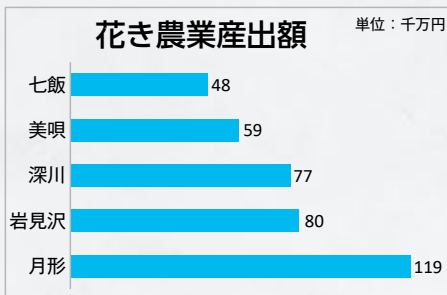


▲カスミソウ

明るい話題だけではなく、組合の設立から50年に至るこの間、台風や雪害などの災害に何度も遭っており、ハウスの倒壊や作物への被害がありました。苦難のたびに生産者が相互に助け合うなどして乗り越えてきた過去もあります。



▲ソネット (ナデシコ)



▲農林水産省令和元年度市町村別農業産出額 (統計) から

## 現在

令和2年には生産組合が設立50周年を迎え、令和3年現在、生産者50戸、69品目349品種を栽培・出荷されています。左記の表のとおり、農業産出額を示すデータでは、本町が北海道内で1位となっており、花の一大産地であることを示します。

※市町村別農業産出額(推計)は、都道府県別農業産出額を農林業センサスおよび作物統計を用いて市町村別に按分したものです。

主な品目はカーネーション、スターチス、ナデシコ(ダイアンサス)、ユリ、デルフィニウム、スカビオサ、ヒマワリで、これらの品目で全品目の8割を占めています。取引市場は現在では北海道、東北、関東、名古屋、関西、中国、北陸、九州の全国19市場に出荷しています。



▲デルフィニウム

## 月形の花がふるさと納税でも

月形の花はふるさと納税の返礼品としても選ぶことができ、全国の寄附者へ届けられています。自分でアレンジができるように長めの切り花、季節の花5種類が産地直送されます。



## Column- コラム -

### 生活にお花を 取り入れてみませんか？

愛媛大学農学部仁科広重教授「データに基づいた植物の心理・生理的効果」から花や緑の効用に関する研究結果の一部を紹介いたします。

#### 心身をリラックスさせ、ストレス緩和

植物を眺めると、心身ともに落ち着いた状態を示す「α波」が増すとされています。また、リラックス効果や空気の清浄効果により心身ともに負の影響を受けにくくなります。植物のある空間で80%以上の方がストレスが緩和されたというデータがあります。

#### 部屋の湿度を調節

植物が水分を蒸散（植物が空气中に水蒸気を放出する現象）することで、冬場は乾燥状態の30～60%へ部屋の湿度を上昇させます。



### おかげさまで50年

花き生産組合  
組合長 渡辺訓広さん  
(北郷)

昨年、2020年に月形花き生産組合は50周年を迎えました。多くの関係者の皆さまにご支援いただき、感謝申し上げます。

現在、花の生産者数はピーク時に比べ50戸と半数ほど少なくなりました。また、人手不足や労働力の確保などが課題となっています。

月形の花の特徴は豊富な種類です。共撰もありますが、各生産者の個撰により、多くの花を生産しています。その数は250種を超え、販路は全国の19市場で流通しています。

活動としては、若い世代にも花に親んでもらうため、小学校で青年部による「花育」という授業を行っています。



また、福祉施設では、花に囲まれた空間で過ごしてほしいとのことから、月形の花を飾っています。さらに、夏まつりで花を展示するなどの活動を続けていきたいと考えていますので、町民の皆さまにも、見に来ていただければ幸いです。



### 花を通じた出会い

大江健一さん  
(新田)

初めての試みとして、6月から10月までの毎月、はな工房をお借りして月形のお花で飾りつけを行ってきました。

江別市・札幌市でお花の販売やアレンジメントに携わる山崎さん、今野さんの2人が「月形を盛り上げたい」と、協力を得て始めました。取り組みについて、最初は簡単に考えていましたが、やっていくうちに「ウエディングフォトに合っているのでは」、



▲8月の花飾り

「モデルさんがいれば」などアイデアが浮かび、実際に花屋を営む埜田さんにもモデルになってもらいながら、工夫を取り入れました。10月の飾りつけでは、

月形のたくさんの生産者に500本以上ものカーネーションを提供いただきました。また、仲間の呼びかけで、岩見沢市や千歳市など町外からも撮影したいと5組の方が来てくれました。



▲左から埜田千尋さん、山崎那由加さん、今野元子さん、大江健一さん

今年の活動は10月で終わりましたが、来年も継続していきたいと考えています。月形の花について、町民の皆さんはもちろん、町外の方にも見て、知ってもらおう方法を探していきたいです。



▲花飾りのようす

最終的には、月形のお花の販売や花を通じて人が集うサロンのような場所が作れたらと考えています。